

## 各圏域における地域ケア推進会議の実施報告

### 1.各圏域の地域ケア会議テーマ一覧

圏域	テーマ	開催者
堺	「おひとりさまでも安心して最期を迎えられる地域にするには」	堺2
忠生	「支え合いの町忠生～災害と感染症の中での私たちの暮らし～」	忠生圏域
	「地域につながるフレイル予防2(その人らしさを取り戻す)」	忠1
	「入院が必要になる時の備え」	忠2
鶴川	「大災害発生！オール鶴川で乗り切るために私たちにできることは？」	鶴川圏域
町田	「フレイル予防啓発リーフレットの活用に向けて」	町田圏域
	「わたしの人生会議～救命救急とACP会議について～」	町2
南	「アルコール問題を抱える方との関わり方」	南1

### 2.地域特有の医療と介護に関する課題

#### (1)課題

圏域	課題	開催者
堺	医療機関では逝去された場合だけではなく、そもそも医療介入する際の「どこまで延命するか」「どこまで侵襲的な医療を行うか」等も課題であり、本人の意向確認もできない場合、医療決定が出来ないという状態に陥る。日常支援している支援者からどのように医療機関へその人のACPを繋ぐのか、という点も連携上重要なポイントと考える。	堺2
忠生	医療と介護の連携という点では、薬について薬剤の処方量などルールはあるものの、かかりつけ医やかかりつけ薬局と災害時の備えについて日頃から相談し、医療が受けられない状況が長期化する可能性も踏まえ準備するよう医療機関と連携する事も重要と考える。	忠生圏域
	フレイルの課題において医療はかかりつけ医によるフレイル予備軍の発見という役割があると考え。フレイルが進行することで通院が困難となり、結果的に受診できなくなり、医療との繋がりが薄れ、次の手段として訪問診療や訪問看護、リハビリ等のアウトリーチ型のサービスに移行する場合がある。フレイルが進行する前にかかりつけ医からの発信や、ケアマネジャーを始めとする介護支援チームが介入することでフレイルリスクが支援者間で共有され、予防に繋がる。かかりつけ医の先生からの発信で高齢者支援センターを通じ介護保険サービスへ繋がるなど、医療と介護の連携を伴った事例も実際にあり、今後の会議でそういった事例も予防の手段として盛り込んで検討することも必要と考える。	忠1
	医療機関では逝去された場合だけでなく、そもそも医療介入する際の「どこまで延命するか」「どこまで侵襲的な医療を行うか」なども課題となり、身寄りがなく本人の意向確認もできない場合、医療決定が出来ないという状態に陥る。日常支援している支援者からどのように医療機関へその人のACPを繋ぐのかという点も連携上重要なポイントと考える。 また、療養型病院など長期的な入院となる医療機関では保証人が必要になる事も多く、「もしも」の前に誰に頼るのかを本人と支援者で決めておく必要がある。	忠2

鶴川	災害がテーマでの地域ケア会議の場合、会場では主に地域での生活継続が困難な対象者の保護もしくは在宅に必要な医療行為の継続を求めて医療機関の協力を考えるが、一方で医療機関は自らも被災者であるうえに現状の入院患者を限られたリソースで支えなければならず、防災計画に基づくトリアージに応じた被災傷病者の治療にも対応する現状を考えると、避難目的での入院ニーズに関してリソースを割く事は困難である。医療には限界があり、災害対策の今後の展開には自助・共助の視点も加えた検討が必要である。	鶴川圏域
町田	フレイルのリスクに最初に気づくのは、本人、ご家族ではなく、かかりつけ医の先生と考える。かかりつけ医が介護保険の主治医意見書を作成し介護保険が給付され、ケアマネジャーが介入する、という流れが一般的であることから、リーフレットの展開に関しては介護、福祉の事業所での利用に加え、クリニックなど医療機関での活用の検討が必要である。	町田圏域
	救急医療の場においても、自宅で訪問診療を開始するにあたっては、キーパーソンの存在が必要であり、対象者がどのように医療を受けていくのか意思決定支援が必要である。侵襲性があっても治療を行うのか、症状に対し緩和的に対応するのか、更に手続きや費用をどのように誰が行うのかなど、日常の支援者も交え予め決めておく必要がある。利用が想定される医療機関の相談職と在宅チームで連携し、本人と事前に話合いの場を持ち、情報共有することも手段として必要と考える。 ACPの普及啓発に関してはACPの見直しの時期とされる介護保険給付時や医療状況が変わった時などに見直しができるよう、かかりつけ医に受診した時や訪問診療時に医療・介護で連携し見直しを提案することも地域で検討が必要である。	町2
南	アルコール依存に関しては圏域でも課題として出たばかりで今後の議論が待たれるが、依存症専門医による専門医療の診療情報とかかりつけ医の平時の診療情報の相互共有、更にケアマネジャーをはじめとする日常生活の見守りと言う3層の支援体制も必要と考える。	南1

## (2) 課題に対する対応策・今後の地域での展開

圏域	対応策・今後の展開	開催者
堺		
忠生	今後は、医療が受けられない状況が長期化する可能性も踏まえた準備や、医療機関と連携について、助言を行うとともに、課題解決に向けた検討を行っていく。	忠生圏域
鶴川	災害時の医療には限界があり、自助・共助の視点が必要であることから、その視点を踏まえた助言を行うとともに、課題解決に向けた検討を行っていく。	鶴川圏域
町田		
南		

## 3. 市全体に共通する医療と介護に関する課題

課題	
----	--

課題に対する対応策・今後の地域での展開	
---------------------	--